



学校だより



7月号

令和8年6月30日
江戸川区立瑞江小学校

世界に誇る「美しいロッカー」から学ぶ、感謝と自立の心

副校長 阿部 貴広

木々の緑が一段と濃く色付き、夏のまぶしい日差しが照りつける季節を迎えました。先日行われました学校公開、学校説明会には、多くの皆様にお越しいただきありがとうございました。また、保護者の皆様、地域の皆様には、今学期も本校の教育活動への温かいご理解と多大なるご協力をいただき、心より御礼申し上げます。子どもたちは、新しい学年や学級にもすっかり馴染み、1学期のまとめに向けて日々の学習や生活に一生懸命励んでいます。

さて、子どもたちが楽しみにしている夏休みを前に、ぜひ学校とご家庭で一緒に振り返りたい、ある国際的なエピソードがあります。それは、サッカー日本代表「サムライブルー」の選手たちが、国際大会の試合後に見せる行動です。激しい戦いを終え、どんなに疲れていても、彼らは使用したスタジアムのロッカールーム（控室）を、塵1つ残さないほどピカピカに掃除して退室します。さらに、きれいに整えられた机の上には、日本の伝統である折り鶴と、現地語で「ありがとう」と書かれた手書きのメモがそっと残されているのです。

この姿は、大会の運営スタッフや世界中のメディアから「これこそ本物のリスペクトだ」「日本代表は心まで一流だ」と何度も大絶賛されています。選手たちがこの行動を続ける理由は、単に「マナーが良いから」だけではありません。その根底には、「自分たちが大好きなサッカーを全力でプレーできるのは、場所を準備し、支えてくれる人々（おかげさま）がいるからだ」という、深い感謝の心があるからです。

日本代表の姿勢は、子どもたちの学校生活にも深く通じるものがあります。学校には、毎日勉強する教室、みんなで使う図書室や体育館、毎日美味しい給食を作ってくれる調理員さん、安全を見守ってくださる地域の方々など、たくさんの「おかげさま」が溢れています。7月は、1学期の間にお世話になった教室や机、道具に感謝を込めて「大掃除」を行う時期です。ただ汚れを落とすだけでなく、「次に使う人が気持ちよく使えるように」「これまで使わせてくれてありがとう」という想像力と感謝の形を、子どもたち自身の手で実践してほしいと願っています。

まもなく始まる夏休みは、学校という枠を飛び出し、ご家庭や地域という大きな社会の中で過ごす時間が増えます。自分の部屋を整える、使ったものを元に戻す、家族に「ありがとう」を言葉で伝える。そうした身近な自立の第一歩こそ、日本代表がロッカーで見せた「一流の心」と同じです。子どもたちがこの夏、多くの「おかげさま」に気付き、心豊かな経験を重ねて、ひと回り大きく成長することを期待しております。